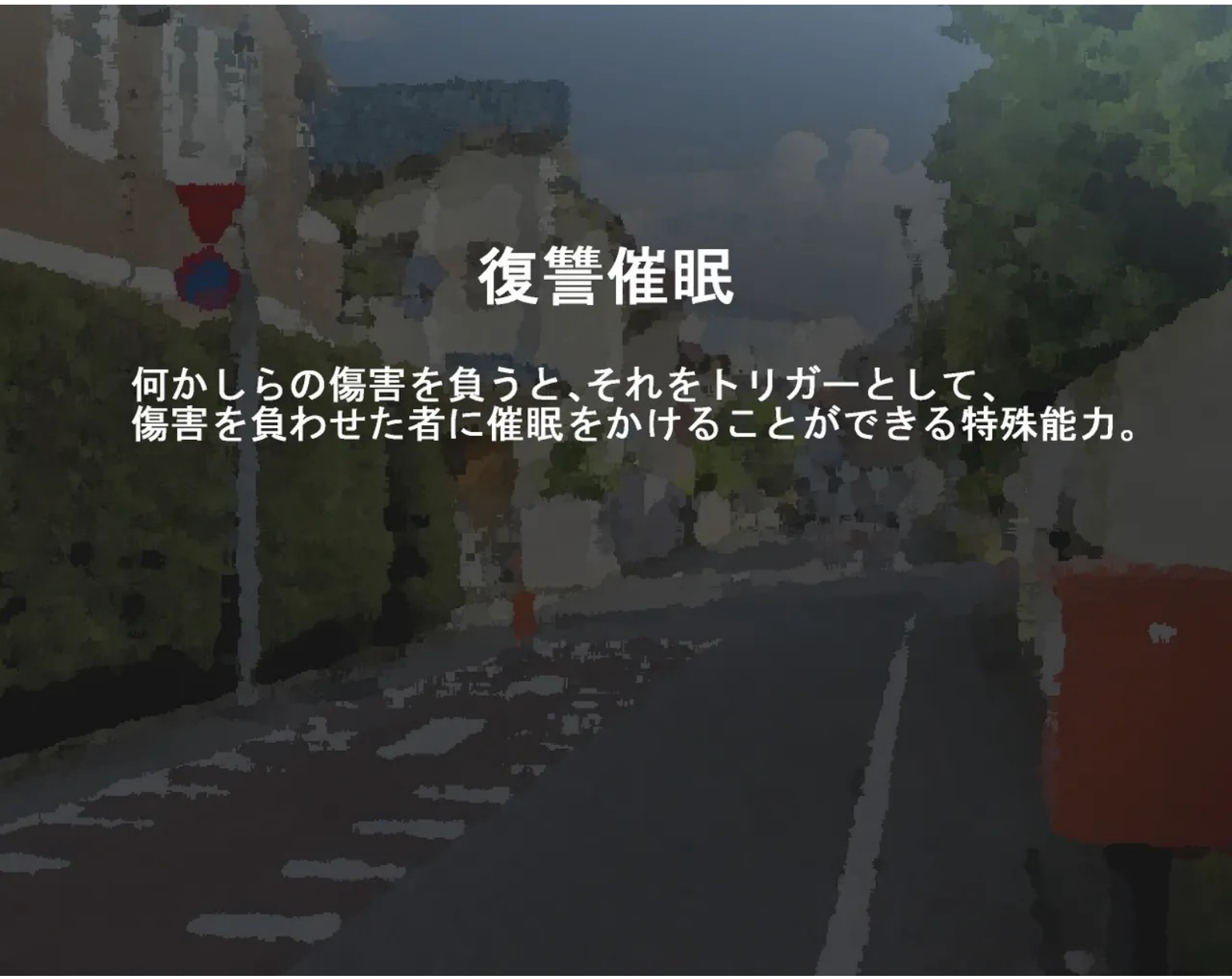
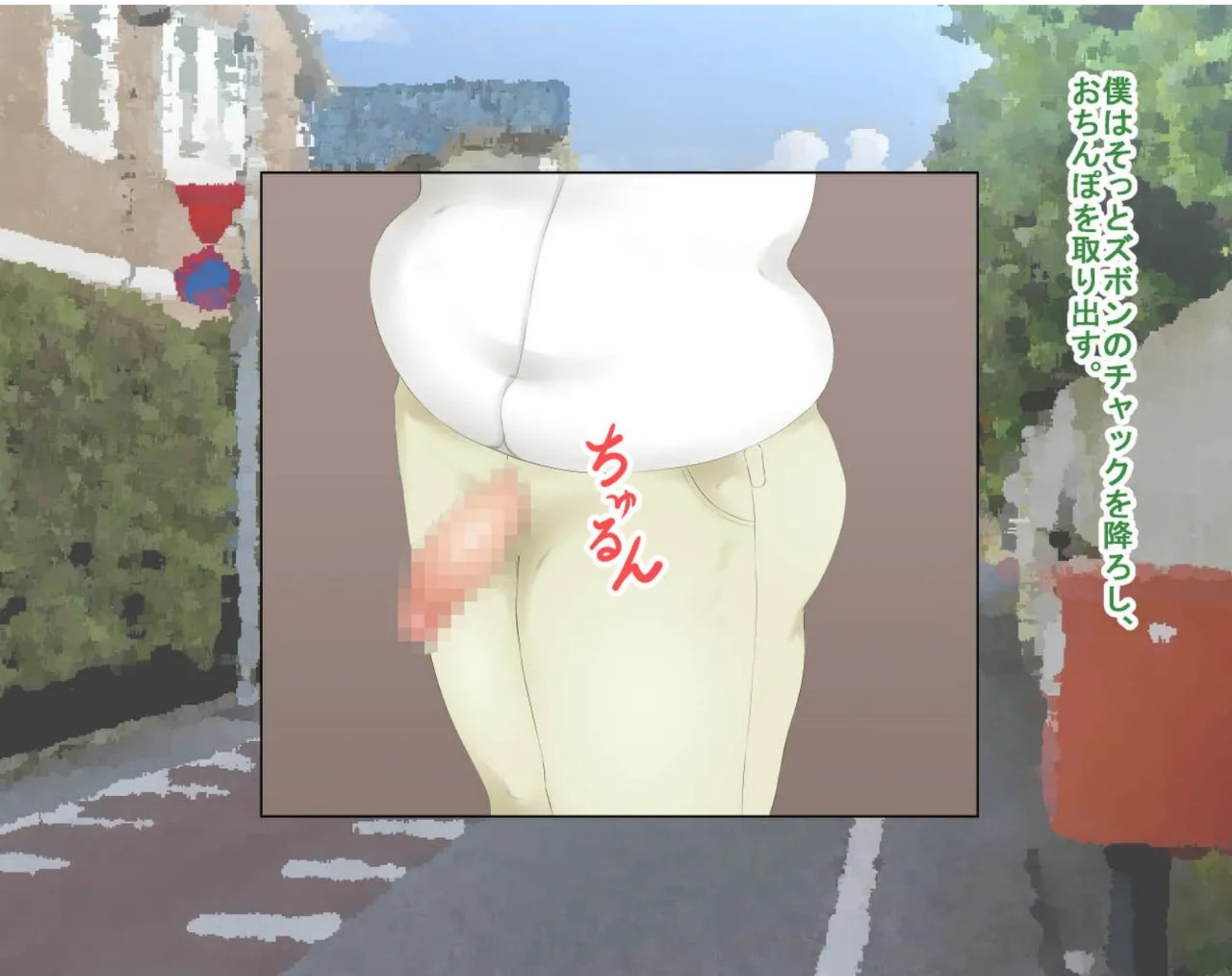
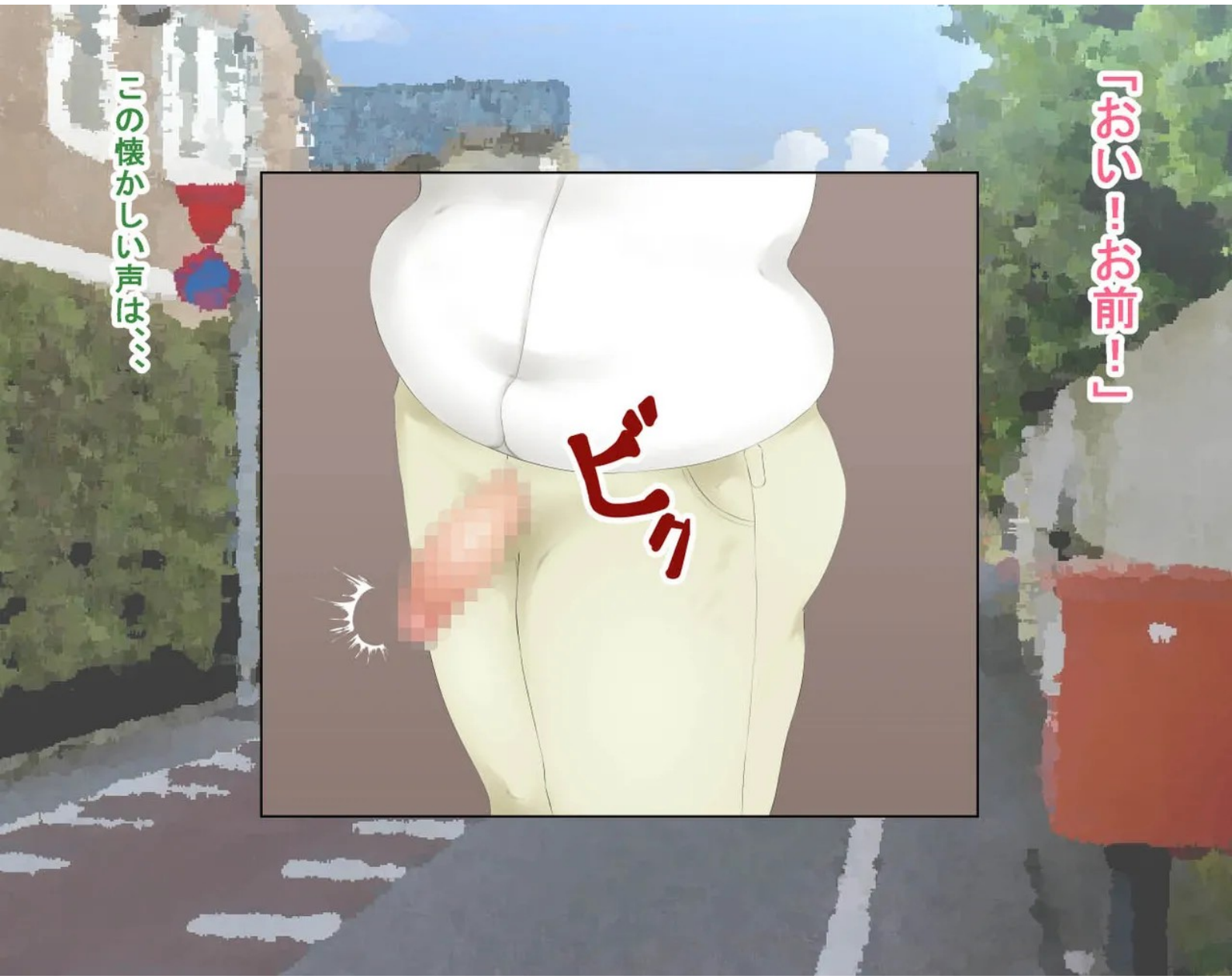

爆乳バイトリーダーが
クズニートの恨みを
買って種付けプレス!!


復讐催眠
何かしらの傷害を負うと、それをトリガーとして、
傷害を負わせた者に催眠をかけることができる特殊能力。


「エロの神様ありがとう！」
復讐催眠の能力に目覚めたその瞬間から、僕はエロしか頭になかった。
ほぼニートとして生活を送ったこの十数年。良いことなど殆どなかった。
しかし、30歳を目前にして春が来たのである。
若いツヤツヤの肉をモミモミずぷずぷできる。想像するだけで涙が出た。
ターゲットは決まっていた。安定して傷害を与えてくれそうな気の強い娘。
3か月前、1週間でバックれたバイト先にいた年下の先輩、篠原水希さん。


彼女を怒らせる作戦を練りに練ること3日。
僕はとある住宅地にいた。
「ここらへんは水希さんの帰宅ルートだったはず、
そろそろ時間だ」


僕はそっとズボンのチャックを降ろし、
おちんぽを取り出す。
ちゃるん


「おい！お前！」
この懐かしい声は、、、
ビク


「ここで何をしてる！」
ドン
まぎれもない、爆乳爆体の水希さんだ。
相変わらず凛々しい顔で恵まれた体をプルンと揺らしている。
ファッションは地味だが、隠れファンは多い。


「お久しぶりです。いやぁ膀胱がパンパンだったので。ジョバジョバ小便を垂れていたんです。不可抗力ですよね」
「公共の場での排泄行為は立派な犯罪だ。今すぐその汚いモノをしまえ。あと誰だお前は」
イラ
イラ
イラ
「え、僕のこと覚えてないんですか？悲しいなぁ、ショック」
「早くしまえ。グズグズしてると殴るぞ」
（きたきた笑）


「はいはいしまいますよっと、あっ！」
確信犯的に尿の一粒を飛ばし、美しく肥えた太ももにうまく着地させた。
ピタ


「ゴ、ゴキブリめぇえ」
ヘブシ!
あぁあぁあぁあぁ
「おおお痛ええ。歯折れたよぉお。」


「馬鹿な奴め。以後気をつけるように。さて帰るか…ん？」
「ラフ動けませんか？」
「いやぁ血を流したかいがありました」
「…何をした」
ギク
ギク
常にクールだった水希さんがわずかに焦りの顔を見せている。それだけで金玉がザワザワする。


「親しくなるために身体拘束の催眠をかけました。恋人への第一歩ですかね」
「ふざけるな」
「それより本当に僕のこと覚えてないんですか？3か月前一緒に働いてたじゃないですか」
ギク
ギク
「3か月前…？ああ、確か一週間でバックれたクズがいたな。仕事覚えが悪くて、会話もろくにできないカメムシ以下の人間が」
「あれはお前だったのか。顔などすっかり忘れていたぞ」
「……なんだと」


へら
へら
「バックれ行為は悪質だが、あの時ばかりは感謝したぞ。お前のような異臭をはなった人間に居座られては他の従業員に悪影響なのでな」
「うるさい！僕が仕事覚えが悪かったのはアンタにも責任があるだろ。指導係のアンタがやるべきことをきちんと説明しないから、僕はミスした、それだけのことだ」
「会話だって僕は積極的に話を振っただろ。使ってるシャンプーの話とか。シカトしたのは誰だ。すべてアンタの新人イビリが招いた結果じゃないか」
「お前のあとに入った新人はみんな楽しそうに働いているぞ。仕事の覚えも良い。全く同じ指導をしたつもりだが、こんなに結果は違う。
「自分の無能さを人のせいにするな。新人イビリなどあの職場には存在しない。お前が都合よく作り上げた妄想だ」


フェコ！
「だまれ！！！！」
「？？？？？？」



「クソ生意気なメスだ。調子に乗りやがって。催眠濃度を上げて内面に踏み込んでやったぞ」
「？？？？？」
「まだ状況が理解できてないのか。おい水希、お前の家って近いんだろ？案内してくれ、一休みしようや」
「……当たり前だろ。お前を家に招くために私は声をかけたんだ。くつろいでいけ」
ほほほ。催眠最高。口調は生意気なままだが従順な肉メスに早変わり。さっきはガッとなってごめんよ。なでなで。よーし遊び尽くすぞー。
「ところで水希ちゃん、いつまでそんな地味地味な服を着てるんだ？僕と会うときはもっとキワキワでピチピチな服を着ろっていつも言ってるじゃないか」
「嘘をつくな。初めて聞いたぞ。…でも、お前が望むならそういう服を着てやってもいい」
「あっそ。じゃあこれに着替えてー。ほらボサツとしない早く」


「ううう。なぜか怒りと恥ずかしさが湧いてくるぞ。これは服と言っていいのか」
(うっひょー。服脱がせたらエグいな。ゆらゆら肉メロンだ。ふわっふわで柔らかそう)
あぁ…
ぱにゅ
ぱにゅ
「さすが水希ちゃん、よく似合ってるよ。モデルさんかな。さて、次は踊ってよ。踊りながら家まで案内して。ハレンチ踊りが見たいんだ」
「ハレンチ踊り?そんなものは知らない。早く帰ろう」

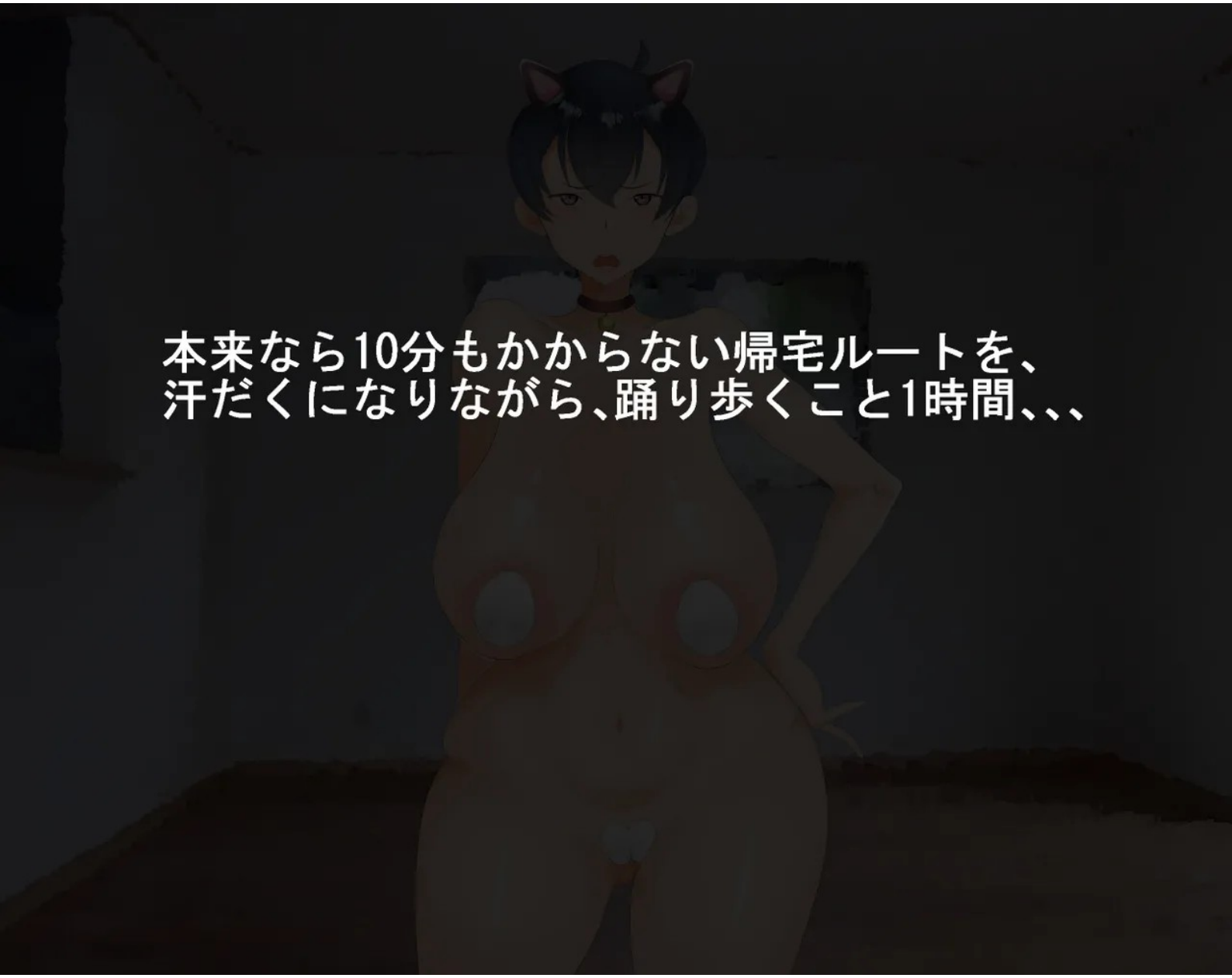

「難しいものじゃないさ。阿波踊りの雰囲気でさ、おっぱいをゆさゆさ弾ませればいい。そして歌いながらゆっくり進む」
「何を歌うんだ？」
最悪…
「あそーれ、男も女もハレンチハレンチ。肉を求めてハレンチハレンチ。子宮がうずうずハレンチハレンチ」
「なんて低俗な歌だ。歌うだけで心が穢れる」
「いいからいいから。命令だぞーー」


「男も女もハレンチハレンチ。肉を求めてハレンチハレンチ。
子宮がうずうずハレンチハレンチ」
「やればできるじゃん、その調子！」
たん
たん
たん
「おチンポむくむくハレンチハレンチ。しゃぶってごっくん
ハレンチハレンチ」
「アドリブいいねぇ。素質あるよ」
（口が勝手に動く、、、）


「あとは表情だ。そんな鬼みたいな顔じゃダメダメ。トロけ顔でエンジョイ踊りしなさい」
「乳ももっと揺らせるだろ」
（うぬぬ、クズ野郎、、）
「ほら、笑顔笑顔」
たん
たん
たん


「ハハハ　能面みたいな顔しちゃって　でも可愛いよー」
「あひいい　皆見てる、通報されちゃうう」
「ネガティブ禁止だよ。もっと自分を解放して、踊りに集中するんだ」
はにょ~ん
ばむ！
ばむ！
ばむ！
「きつきつマンコに肉棒ズンズン。子種ミルクをチュウチュウ、チュウチュウ」
「ハレンチハレンチ」「ハレンチハレンチ」


「我慢できない！」
「おチンポすりすり、パイオツぎゅうぎゅうだ！」
「ふぬ――――――！」
!?
ボ
プッ
「つきたてお餅をこねこねこねこねこね」
「エロ正月だよこねこねこねこねこね」
（うう、終わらない、、）


本来なら10分もかからない帰宅ルートを、
汗だくになりながら、踊り歩くこと1時間、、、


「やっと着いた、、、」
「へー。ここが水希の部屋か。予想通り殺風景だなぁ」
はぁ
はぁ
はぁ
「あまりジロジロ見るな。それよりこの猫耳は何だ？」
「萌え要素が欲しくてつけたけど、こんなに似合わないとは」
「まぁ一応つけておいて」
「失礼な奴だ」


「ヤバそうなもの全然置いてないなぁ、つまらない」
「しいて言うならこの写真立ての子が気になるなぁ」
「えちえちじゃん」
「あまり部屋のものをイジるな。…それは妹だ」
大好き
妹
「へぇー。姉とは真逆のふんわり清楚ちゃんだなぁ」
「チャラい男につかまりそう」
「お前に何が分かる。確かにお人好しなところがあって、クズ男たちが寄っては来やすいが、私が断じて許さん」
「もう付き合ってると思うよ。たぶん」
「先週、紹介したい人がいると、男を連れてきたが、無礼な男だったから、顔を一発張ってやった。もう寄りつかないだろう」


「親のお金で遊びほうける偏差値30のクズ学生など、どこから湧いて妹と接点を持つのやら」
「部屋に紛れ込んだカナブン並みに不快だ」
（虫の喩えが多い女だな）
呆れ…
「まぁクズ男は世の中たくさんいるからね。外見ばかり見ずに内面を見ないと」
「僕のような男と付き合いたいなら内面をじっくり見ればいい」
「私は人間の話をしてるんだ。タガメと肩を並べるお前などは論外。誰も付き合いたくはないだろ」
「おい！ちょっと気を抜くと無礼なこと言いやがって！罰だ！」
「僕のちんかすたっぷりおちんちん、クリーニングしなさい！」


「ううん、何だこの匂いは。釣りエサをより濃密にしたような匂い。空気がよどむ」
「まぁ3日ほど風呂に入ってないからな。でも、好きな男の匂いなら歓迎だろ？」
「催眠効果も相まって、立派なオスの匂いに思えてくるさ」
ぞわ…
「お前を好きになった覚えなどな、ゴホッ！ゴホォォ！」
「大げさにむせやがって。本当は妹にも嗅がせたいって思ってるんだろ？」
「ふざけるな。こんな異臭を嗅ぐのは私一人で十分だ」
「独占欲かな？まぁ頑張ってオチンポ掃除したまえ」


「れろろろろろ」
「おひょ！おひょ！おひょひょっ！」
きめ細やかなトロ舌がチンカスをかき分けて、肉竿を敏感にしてきやがる。ジットリと見つめる目つきもたまらない。
「水希い。言動とは裏腹にノリノリじゃないか。チンポがよだれでテロテロだぞ」
「んんん、全部、、催眠のせいだ」
「ふーん。じゃあ金玉マッサージも追加でやってー」
ビク
ビク
ビク
ビク


「うえ、イヤな感触、コリコリの玉が動いてる…。弾力のある幼虫みたい」
ホヒ
ホヒ
ホヒ
ホヒ
美女の滑らかな指先が、ひんやりと睾丸を押し込む。金玉は袋の部屋を縦横無尽に動き回る。
「うふぅ　手つき良いよぉ。粘度高め精子、チャージされてくぅぅぅ！」
ビク
ビク
ビク
ビク


「ズズズズ」「むふ！おうぐ！」
張りつめた亀頭を、好奇心の赴くまま、温かい口内で包み込む水希ちゃん。
快感で蕩ける男を見て、やりがいを感じ始めているようにも見える。
「上手いぞぉ水希。カウパー汁、一滴残らず飲み干しなさいいい」
「ブブブブブッ」
（まずくて吐きたいはずなのに、）
ぬぽ
ドク
ドク
ドク
ドク
ドク
ドク


「スボボボボボボボボ！」
「おごぉぉ　吸引MAX！　ひょっとこフェラたまんねぇ！」
「強いオスのためなら、アホ面さらしてチュウチュウする。」
それが女だ」
「ズピピピピピピピピ！」
ヂュル ヂュル ヂュル ヂュル ヂュル ヂュル ヂュル ヂュル
お お お お お お お お
男尊女卑の問題発言があっても、水希は行為をやめようとはしない。
「おふおふ　子種、上ってきたぁぁ」
「プギギギギギ！」「出るぅ出るぅぅぅ」

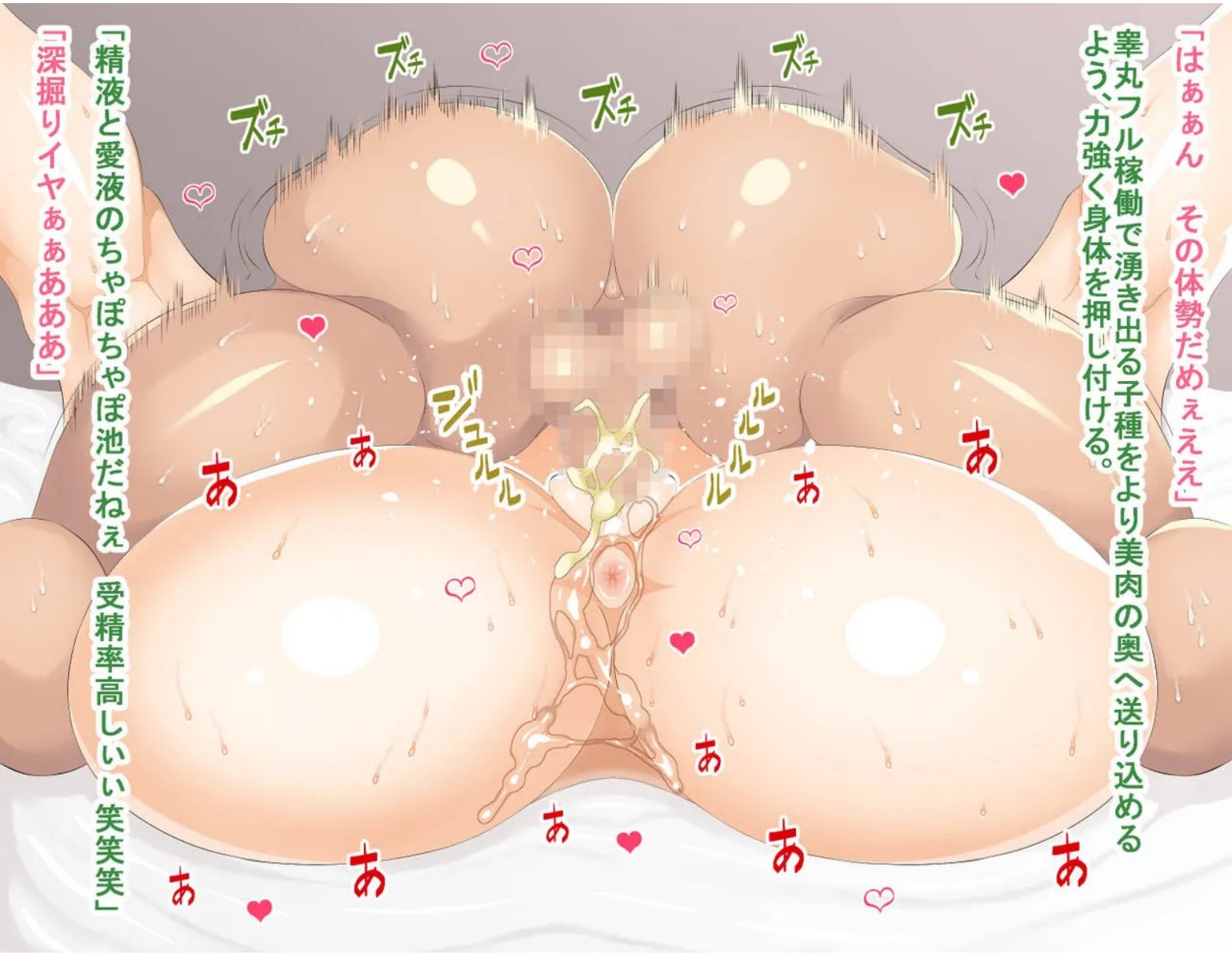

「出ましたぁ～」
ぐぽぉ
ぐぽぉ
ぐぽぉ

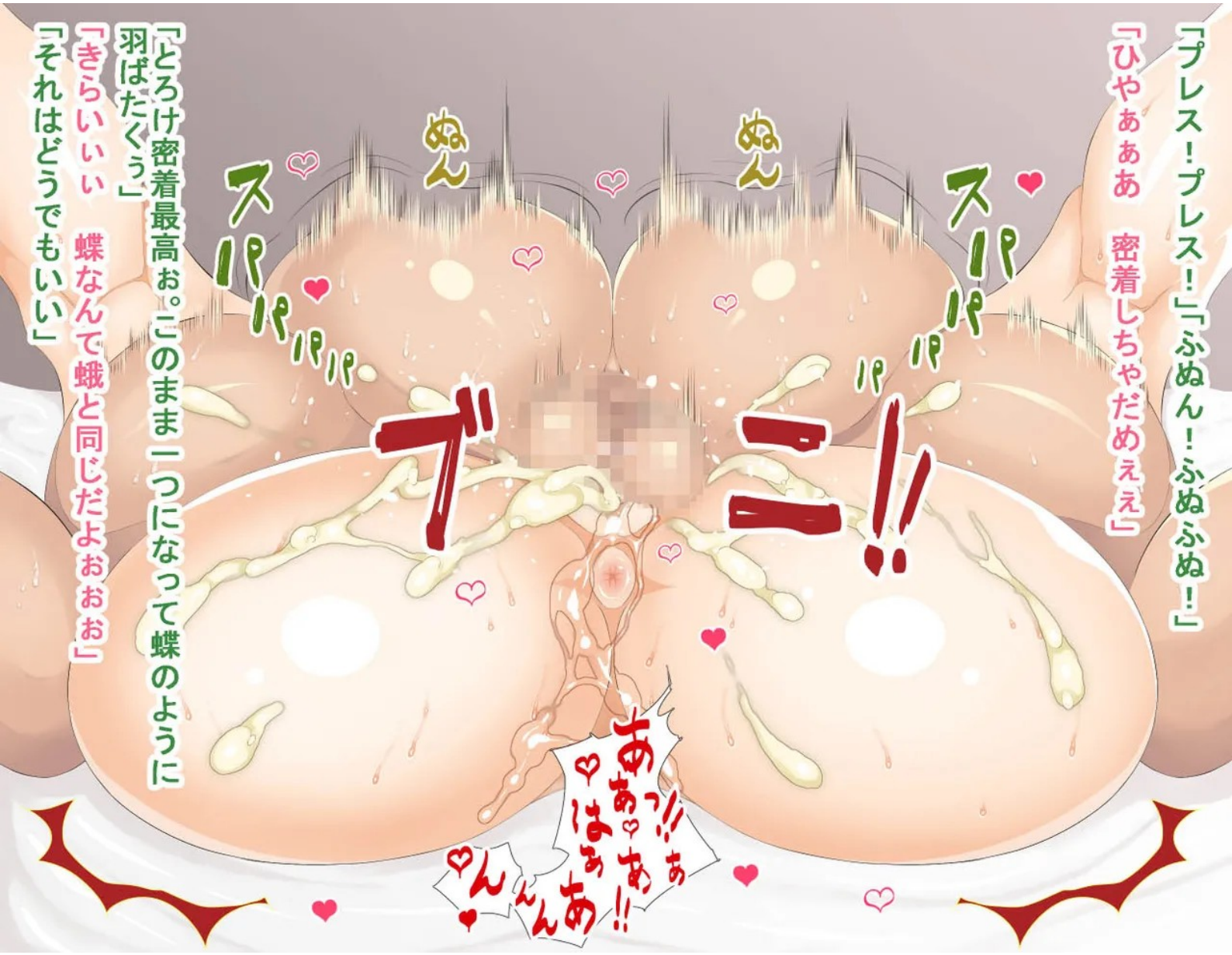

「待たせてごめんね。ご褒美の挿入タイムだよ」
(あれだけ黄色いザーメン出たのに、もう勃ってる、、ゴキブリ10匹分のしつこさだ、、)
「そう簡単に僕のペニスは衰えないよ。クールな水希がイキ散らかす様を見るまではね」
「イキなどしない」
ふー
ふー
ふー
!!
あっ
あっ
むち
「どうかな。亀頭を軽く擦りつけただけなのに、もう水希の肉マンコはヒクヒク悦びの声をあげているぞ」
「気のせいだ」


「いやぁ運命的だな。童貞と処女がひとつになるなんて」
「お互いの記憶に一生残るんだ。初体験ってそういうこと」
「ん？処女だなんていつ言った？勝手に妄想するな」
「いやいや処女でしょ。恋愛経験のある女がこんな無愛想になる訳ないでしょ。君は処女」
「処女のツヤツヤ卵子に僕のくすぶり精子が絡みつくの」
「それってロマンでしょ」
「気持ち悪い奴。どんな女もお前に対しては無愛想だろ。塩対応と処女を結び付けるな」
「処女喪失は高校の頃、体育教師とプールの更衣室で～」
「だまれ！だまれ！聞きたくない！」
「過去の性体験など、僕の催眠セックスで忘れさせてやる！」
「感度マシマシ挿入をくらえ！」
ふー
ふー
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
？
むち

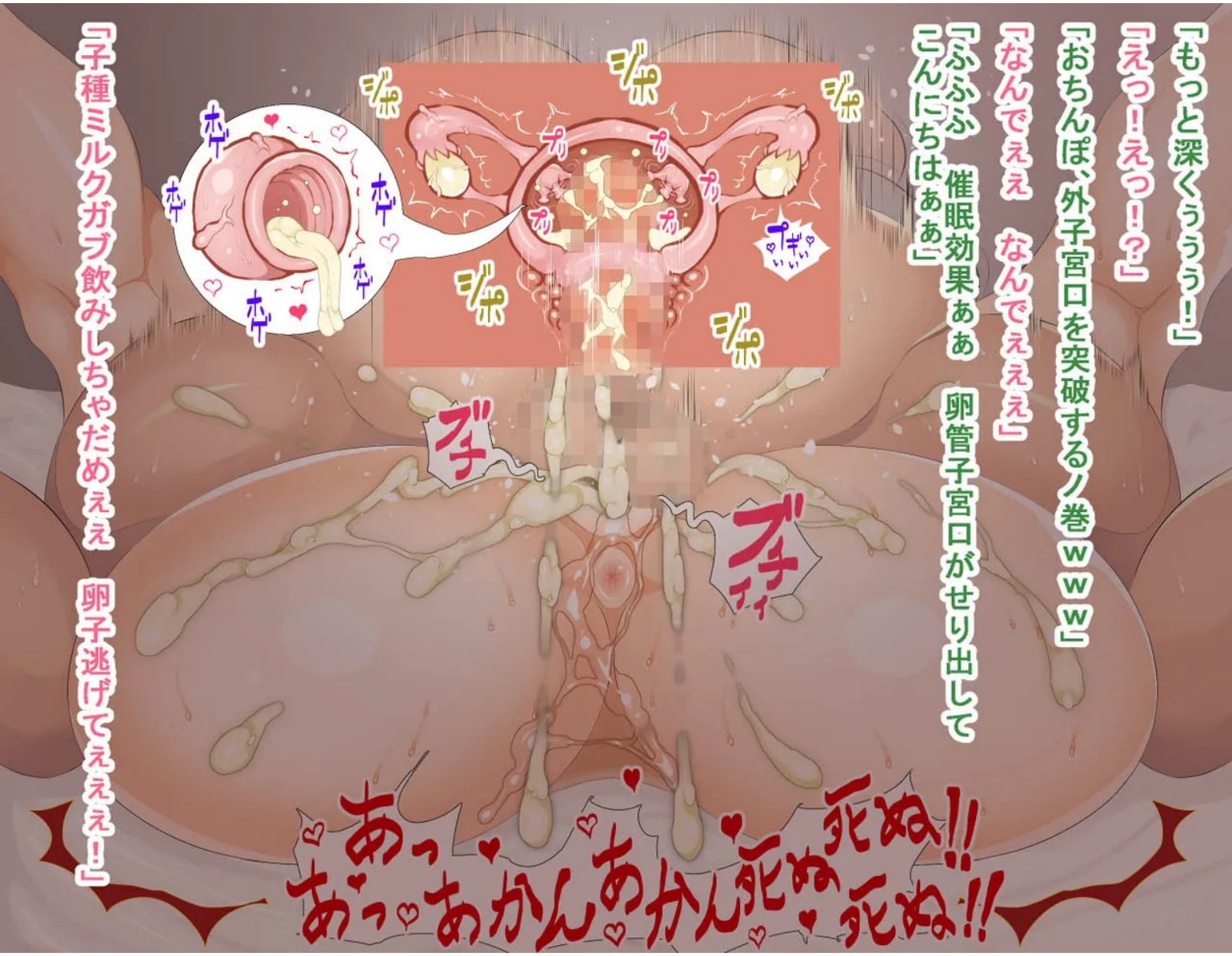

「いひいいいいいい」
「おっほぉ！さっそく愛液溢れてんじゃん」
「ローションいらずのドスケベちゃん」
「恋愛対象じゃない男にこれだけ濡れないよね？」
「本当は付き合いたいんでしょ？」
ズチ
ズチ
ズチ
ズチ
ズチ
〜〜っ♥
ふん
ふん
ふん
ふん
ふん
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
ドププ!!
「付き合って、同棲して、毎日僕の子種を受けとめたいんでしょ？」
「それだけは絶対イヤぁ」

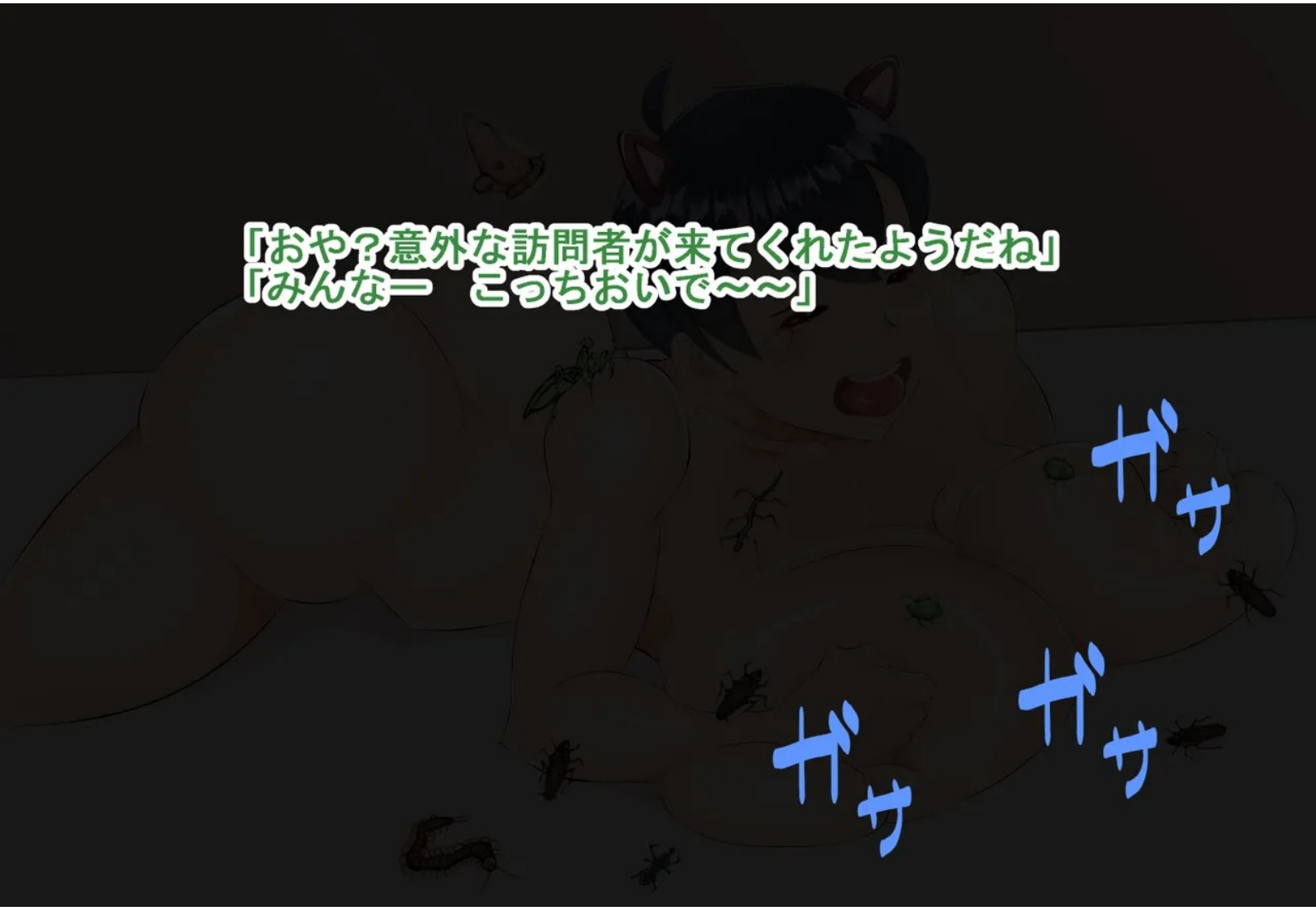

「おっふ！出る出る出る！精子のかたまり出るぅう！」
「あああああんあああんあああああぁぁ」
「ふん！おっ？おおっお！」
「おっほ、うんうん、わかるぅ」
「～～～っっっっ❤❤❤」
ぎゅいい
ぎゅいい
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
えいっ
ふん
ふん
ふん
ふん
ふん
ふん
おおっ～❤
あぁ
ぴぴぴ
ブリ
ブリ
ブリ
ブリ
ブリ
ブリ
ドププ!!
豊満な膣肉がこれでもかと肉棒を絞り込み、強欲な子宮口が一滴残らず子種を吸い込もうとしてくる。
「水希の赤ちゃん部屋、僕の遺伝子汁で満たしてあげるぅう」


「はぁぁん　その体勢だめぇえええ」
睾丸フル稼働で湧き出る子種をより美肉の奥へ送り込めるよう、力強く身体を押し付ける。
「精液と愛液のちゃぽちゃぽ池だねぇ
受精率高しいぃ笑笑笑」
「深掘りイヤぁぁあああ」
ズチ
ズチ
ズチ
ズチ
ジュルル
ルルルル
あ


「プレス！プレス！」「ふぬん！ふぬふぬ！」
「ひやぁぁあ　密着しちゃだめぇぇ」
スパパパ
ぬん
ぬん
スパパパパ
ブニ!!
「とろけ密着最高ぉ。このまま一つになって蝶のように羽ばたくぅ」
「きらいぃぃ　蝶なんて蛾と同じだよぉぉぉ」
「それはどうでもいい」
あっ!!ぁ
あ♡あ!!
はぁあ
んんあ♡


「スピード上げちゃうよぉぉ！」
「ほぉぁあん！んん！んんんん！」
（無責任中出し、最低なのに気持ちいい）
（弱点を逃さずみちみち突いてくる。。意識が飛ぶ。。）
ボヒ
ボヒ
ボヒ
ボヒ
ボヒ
ボヒ
ブチ
ブチィィ
「力任せでも相性抜群だからOK笑
恋人ってそういうことぉぉぉ！」
あっ♡あっ♡あかん♡あかん♡死ぬ!!
死ぬ!!


「もっと深くうううう！」
「えっ！えっ！？」
「おちんぽ、外子宮口を突破するノ巻ｗｗｗ」
「なんでぇぇ　なんでぇぇぇ」
「ふふふ　催眠効果ぁぁ　卵管子宮口がせり出して
こんにちはぁぁ」
「子種ミルクガブ飲みしちゃだめぇぇ　卵子逃げてぇぇぇ！」
ジポ
ホゲ
ブチィ
あっ♡あっ♡あかん♡あかん♡死ぬ♡死ぬ!!


「おや？意外な訪問者が来てくれたようだね」
「みんなー　こっちおいで～～」
ザサ
ザサ
ザサ


「ひゃあああ 虫っ！ なんでぇえ こっち来るなぁあああ！」
「ははは これも催眠効果かな
色んな虫たちが
おびき寄せられたねぇ」
ぴく!!
「ゴキブリ多めイヤぁぁ これじゃ SEX集中できないぃぃ」
「おや？水希はそんなにSEXを求めていたのかい？？」
「ううううう」


「虫の怖さなんて快楽で忘れさせてやる」
「ふごぉ　哀え知らずオチンポ来たぁぁ」
「ほーら　虫がいようと
愛液いっぱい子宮はアツアツ」
パ
チョ
「僕と一緒なら虫も怖くない」
「う〜〜うう」（虫…可愛いかも…）


「あああああ 顔はダメぇぇ やっぱり虫はクソ生物ううう」
「水希は虫にも愛されて幸せ者だなぁ笑笑」
「粘膜タッチしちゃイヤぁぁ ゴキブリ味まずぅぅ」
おおおお
はぁーー
はぁーー
はぁーー
ブチ
ブチ
ブチ
「大丈夫 大丈夫中出しには問題ないおふぅぅ」「んぐぉふ」


「あっ…あっ…卵子…追い込まれてる…」
「精子…強い…頭ツンツンぶつけてくる……」
ニョキ
ニョキ
ニョキ
ニョキ
ニョキ
……
はぁ——
はぁ——
はぁ——
ブチ
ブチ
ブチ
「僕の愛情の強さでもある」「そういうの…いらない……」

1時間後

ズボ
ズボ

「もっとお　もっとお」

「へへ　あんなに強気だった水希も今じゃ
溺けモードだなあ」

「だってえ　中がヒクヒクしてえ喜んでるからあ」

「あっ　そっちの穴はだめえええ」

「ほあぁ　うんち穴　みしみし言ってるぅう」

ピリリリリリン

「ん？」

ピリリリリリン

「おい水希　ケータイ鳴ってるぞ　誰だこんな時に」

「ほごぉ　いい　妹のお　まりちゃんんん」

「おお　あの清楚ドスケベちゃんか
こりゃ電話に出ないと」

「はぁ～～い」

「んんん　まりちゃんん」
「お姉ちゃん゛゛゛！」の前は「あんなそこ゛゛゛」
「んんんん？」



「紹介した小林君゛本当はもっといい人なの°
あの日はちょっと緊張してて」

（1週間前に揉めたとか言ってたな）

「悪気はなかったの°お姉ちゃんと」のまま
気まずい関係でいるのも辛いです」

「んんん　いいよおお」

「え？」

「小林でも林でもいいよおお　気持ち良ければOKええええ」

「お姉ちゃん……ありがとう！」

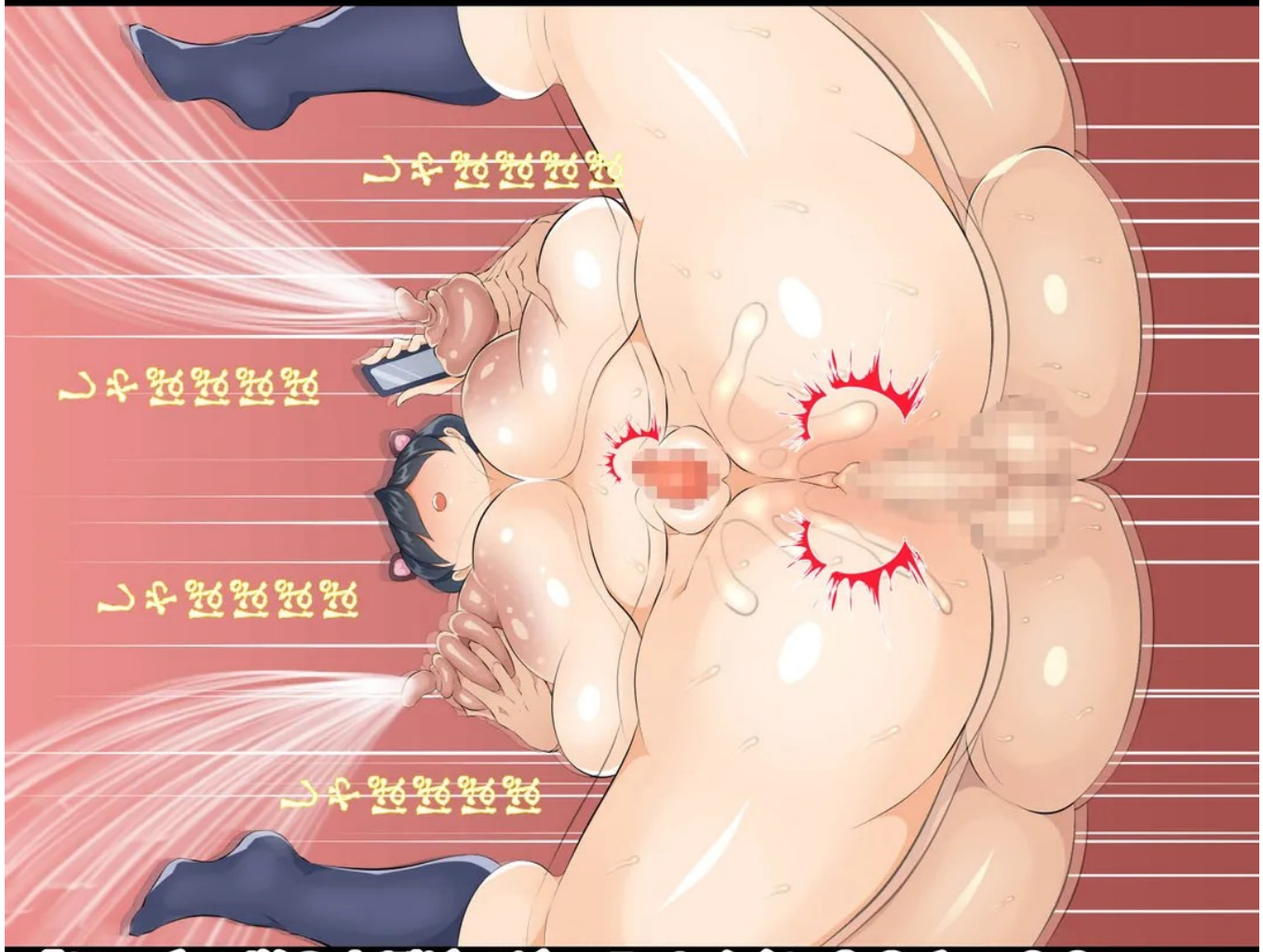
「そんなにとりこいこい」

「お姉ちゃん催眠にかけられてぇぇ
身体がビンビンになっちゃってぇぇ」
「……お姉ちゃん？」
「乳首の色とかもお変色して
ウズウズするしい」
ぱみ
ぱみ
ぱみ
ぱみ
ほひぃ
ほひぃぃ
あぁ
「子宮も下がってきて
外にはみ出てるしいい」
「……」
「今はぁ　アナルを攻められてぇ 新しい世界が見えてぇぇ」
「まりちゃんにもオススメだよぉぉ」
小林「お姉さん、それマジっすか」（小林いたのか、）
ドプ

「おおおお　母乳噴射ああ　出る出るううう」

「何でもいい 小林まりちゃんも好き放題やればいいい」

「見直したっす　ビッチ姉さんｗｗ」

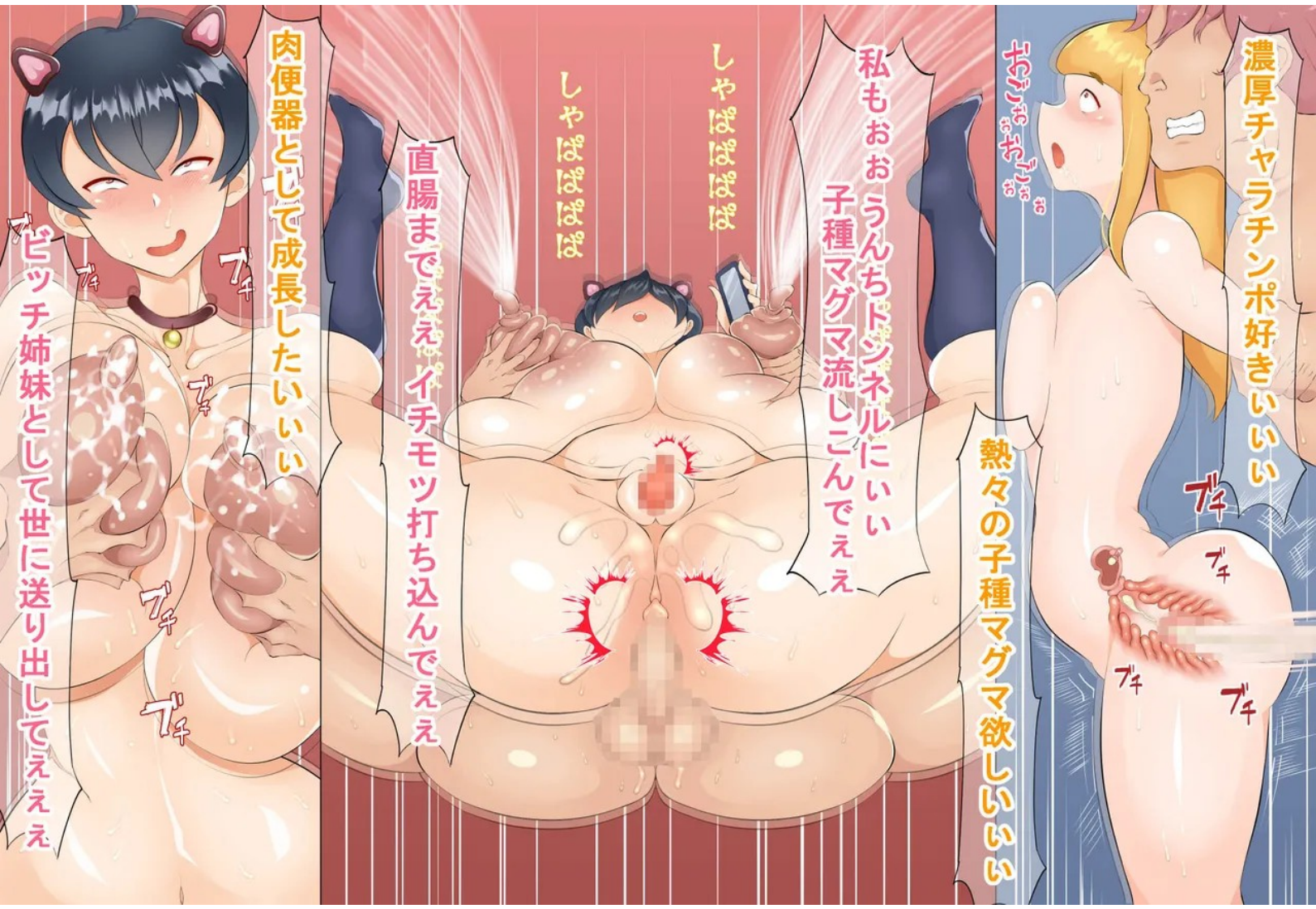


「まりい　俺の子種ぶちぶち中に入れてやっからああ」

「小林くんん小林くんんん」「下の名前で呼べいいい」

「まりいい　一緒にイこうううう」

「俺も会話に参加させろおおおお」


濃厚チャラチンポ好きいいい
おごおおおごぉぉ
熱々の子種マグマ欲しいいい
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
私もぉぉうんちトンネルにぃぃ
子種マグマ流しこんでぇぇ
しゃぜぜぜぜぜ
しゃぜぜぜぜぜ
直腸までぇぇイチモツ打ち込んでぇぇ
肉便器として成長したいいい
ビッチ姉妹として世に送り出してぇぇぇ
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ


来た来た来た 子種子種子種ぇぇぇぇぇ
おごおおおごごお
ブチ
ブチ
ブチ
ちゅぱ
熱い熱い熱い イクイクイクぅぅぅぅぅ
そそがれてるぅ あふれてるぅぅぅぅ
ぼひぃぃぃぃ
おおおお


「姉妹でイケるなんて幸せです」
「強いオスの精液ごちそうさまでした」
ちゅぱ
「今後の人生 大きく変わります」
「忙しくなります」
ぼひいいおおおお
ぼひいいおおおお
「性奴隷として殿方に尽くしていけるよう精進いたします」
!!!
「今日はお集まりいただき本当にありがとうございました」

数日後、某街にて

「ねぇママ なんであの人裸なの？」「見ちゃダメ」

「うわ ムービー撮ろ イ○スタ映えｗｗｗ」

「最低 生きてて恥ずかしくないのかしら、、、」

「取材させてください あと触らせてください」

「海外では普通ですよ たぶん」

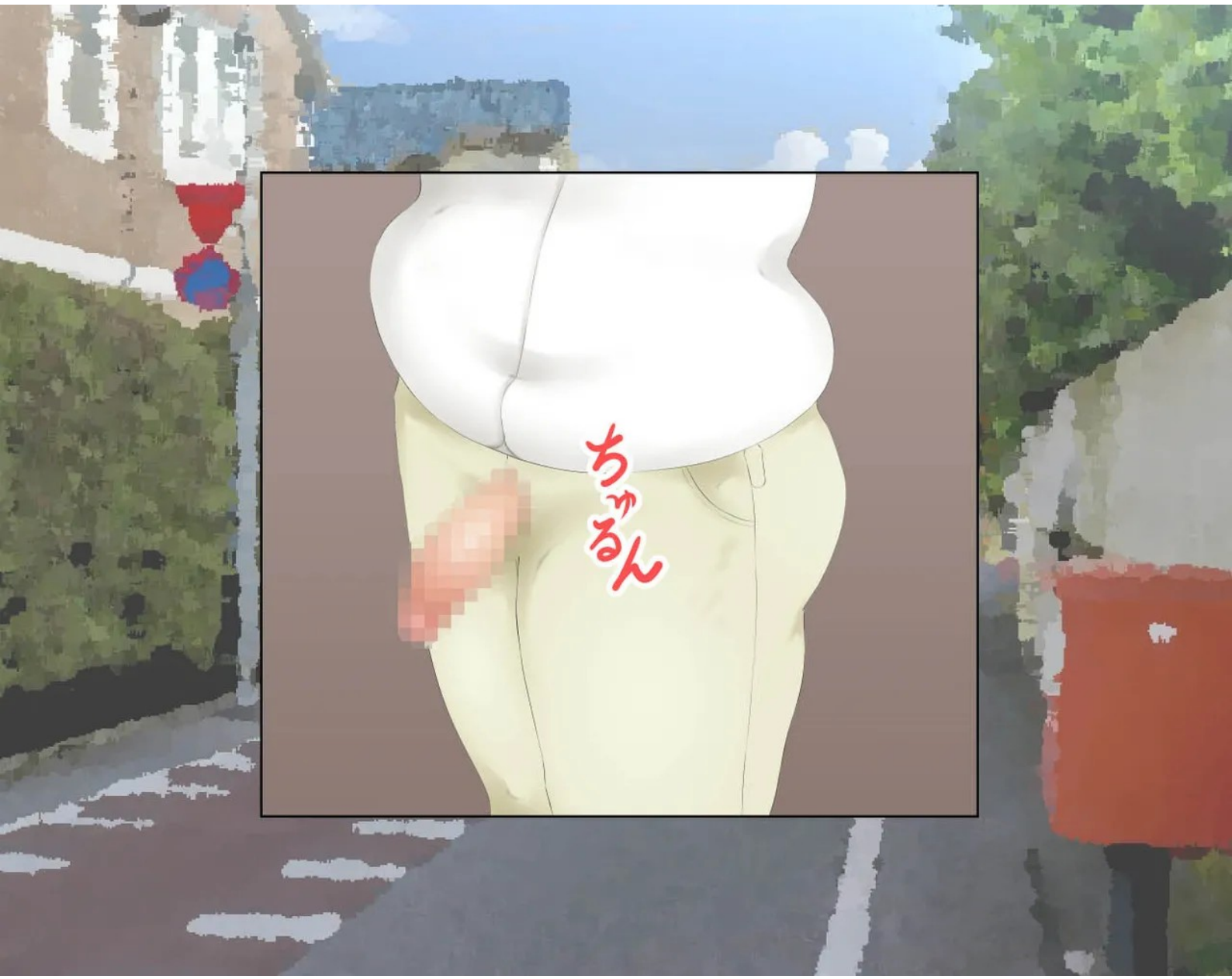
ざわ

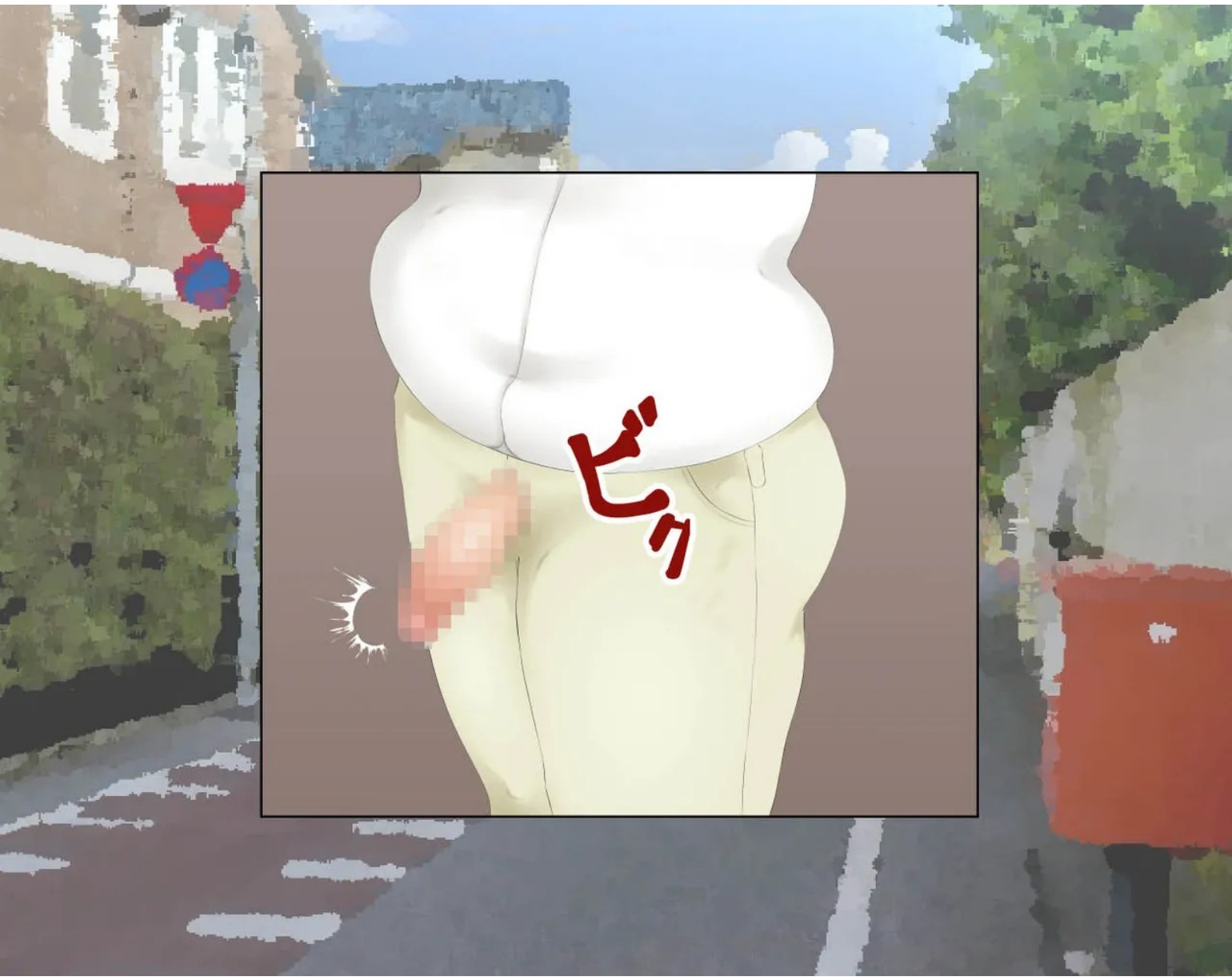
ざわ


「ほーら皆見てる 惚れ惚れしてる 皆水希のことが好きなんだよ」
「ほ、ほんとぉ？」
「職場の人たちにも今の水希、見せてあげよ」
「今までの自分は仮面を被ってました、これが本当の私ですってさ」
ぼー
子種
むち
むち
「ちょっと怖いよぉ」
「大丈夫、クビになったとしても僕は味方だよぉ」
「一緒にライブチャットで稼ごうｗｗ」
「うんんんん」


「おっほぉお 嬉しさ余って滝ミルク来たぁぁぁぁ」
「これ1時間は止まらないヤツですよ皆さんｗｗｗ」
「さすが僕の恋人おぉおぉお」
しゃぱぁあー
しゃぱぁあー
子種
「あっイジめてる訳じゃないですよぉ 愛情表現ですぅう」
「催眠じゃないですよぉ この子自分の意志なんでｗｗｗ」


しゃぱあぁー
しゃぱあぁー
子種
クズの勝利で完。。。


ちゅるん


ビク


ドン


イラ
イラ
イラ


ピタ


ヘブシ！
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ


ギク
ギク
ギク


へら
へら


フェ
コ!


ふわ
ふわ

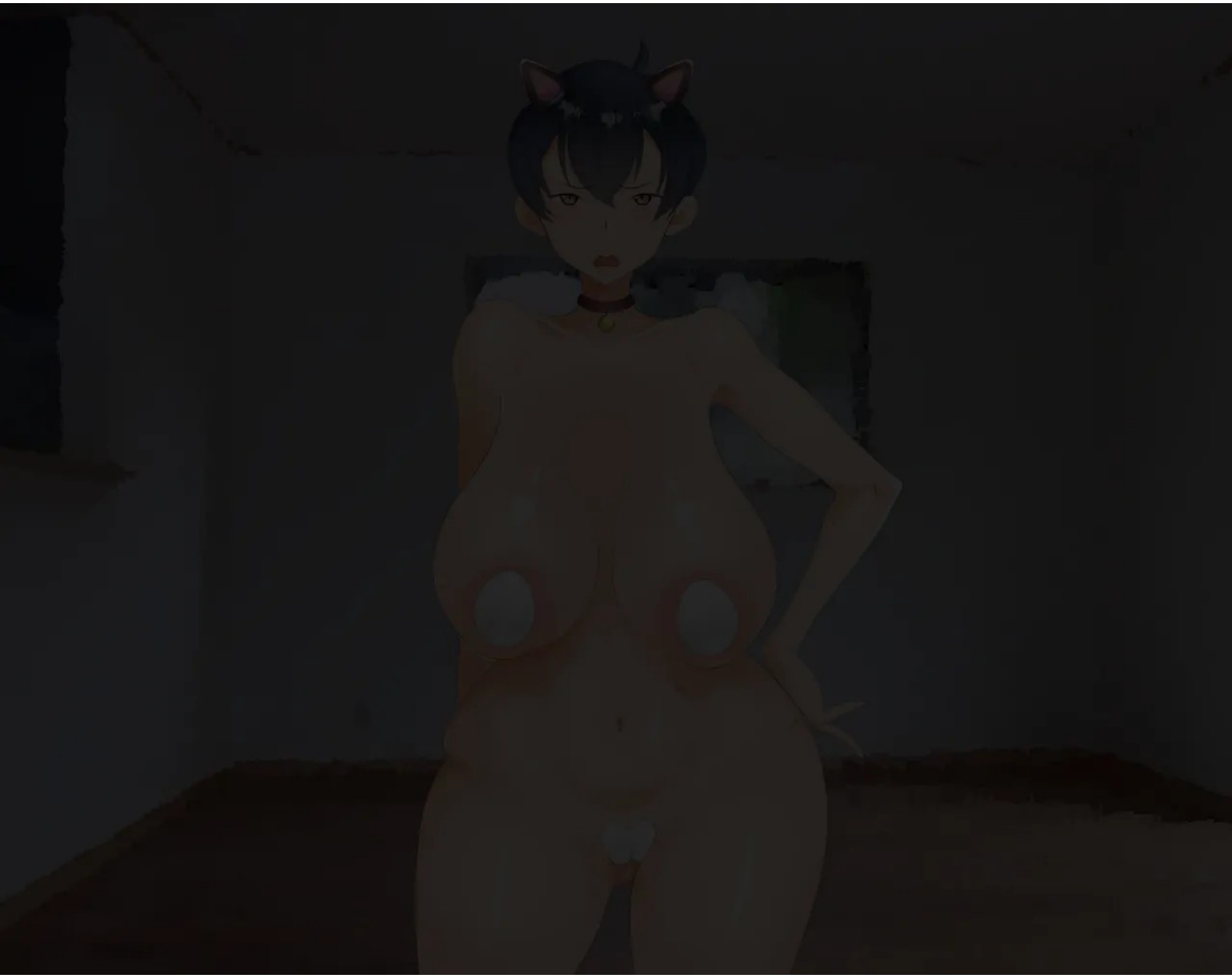

あぁ…
ぱにゃ
ぱにゃ


最悪…

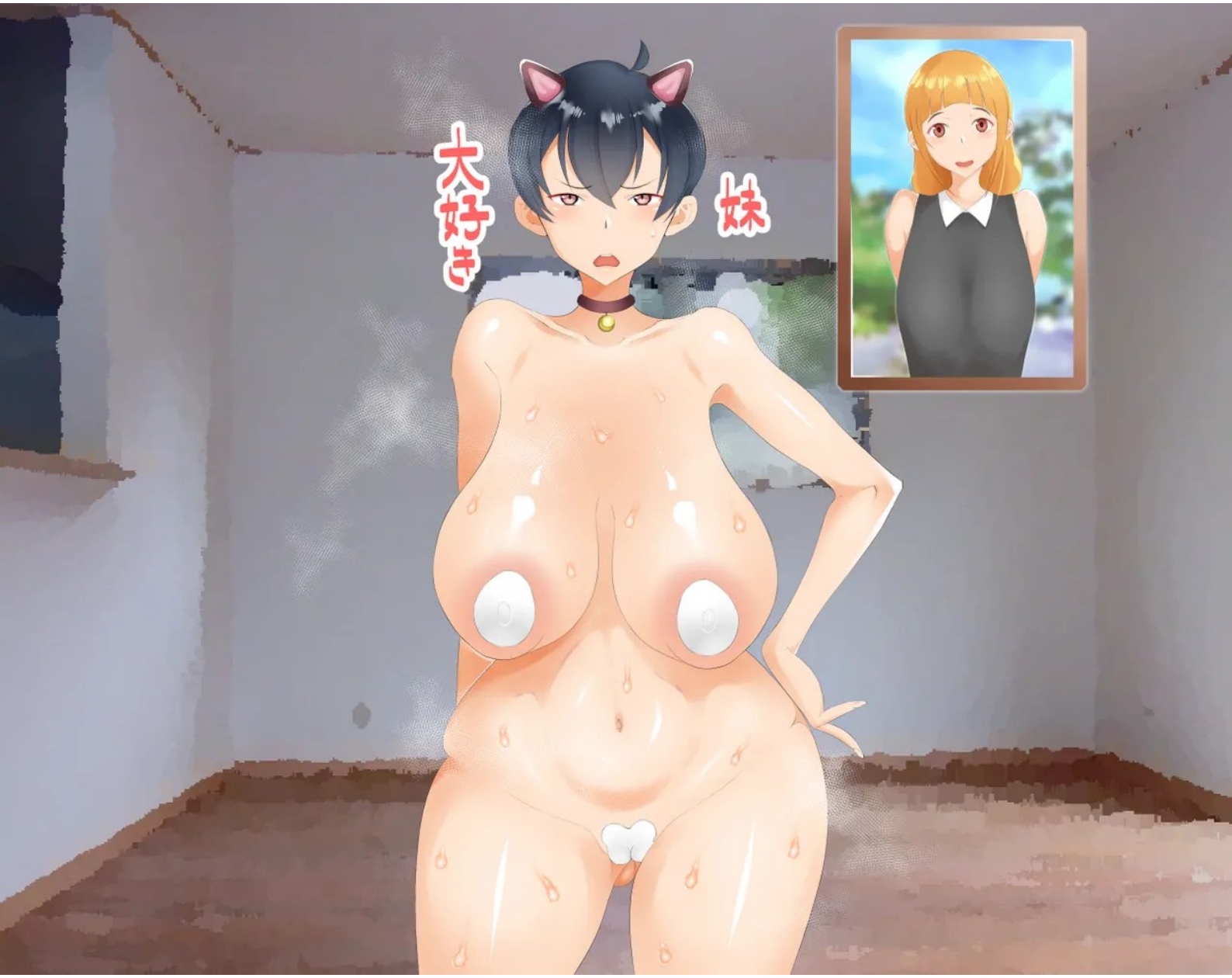

たん
たん
たん
FILA


はにょ~ん
ばむ!
ばむ!
ばむ!
ばむ!


!?
ボ
ブッ
FILA




はぁ
はぁ
はぁ
はぁ


大好き
妹


呆れ…


ぞわ…


ビク
ビク
ビク
ビク
ビク


ホヒ
ホヒ
ホヒ
ホヒ
ビク
ビク
ビク
ビク


ぬぽ
ドク
ドク
ドク
ドク
ドク
ドク


ﾃﾘｭ
ﾃﾘｭ
ﾃﾘｭ
ﾃﾘｭ
ﾃﾘｭ
ﾃﾘｭ
ﾃﾘｭ
ﾃﾘｭ
ﾃﾘｭ
ﾃﾘｭ
お
お
お
お
お
お
お
お

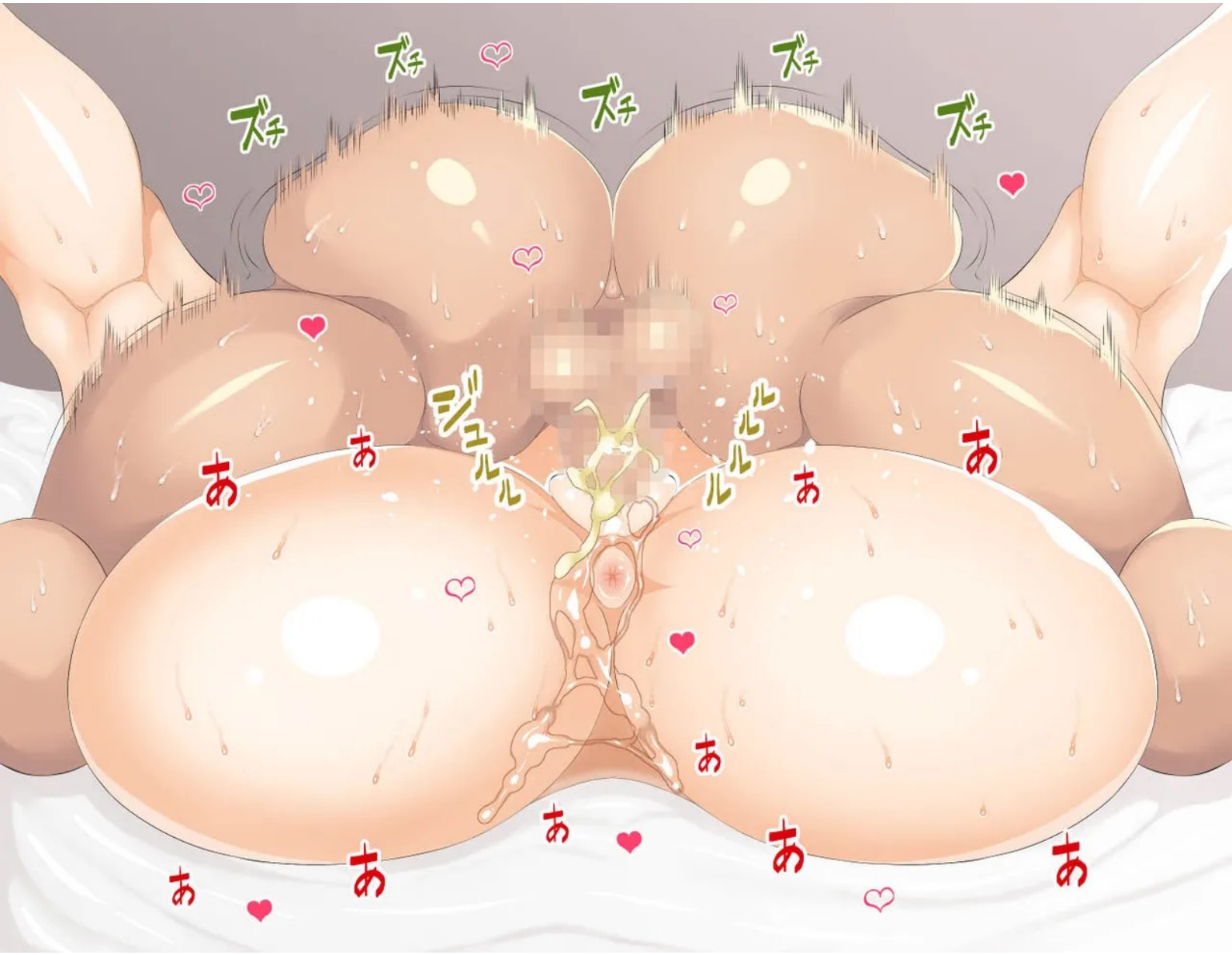

あーうん
あ…うん
ぐぽぉ
ぐぽぉ
あ…ん
ぐぽぉ
ぐぽぉ
ぐぽぉ
ぐぽぉ
ぐぽぉ
ぐぽぉ
ぐぽぉ
おぉ…
あ…うん
あぁーん

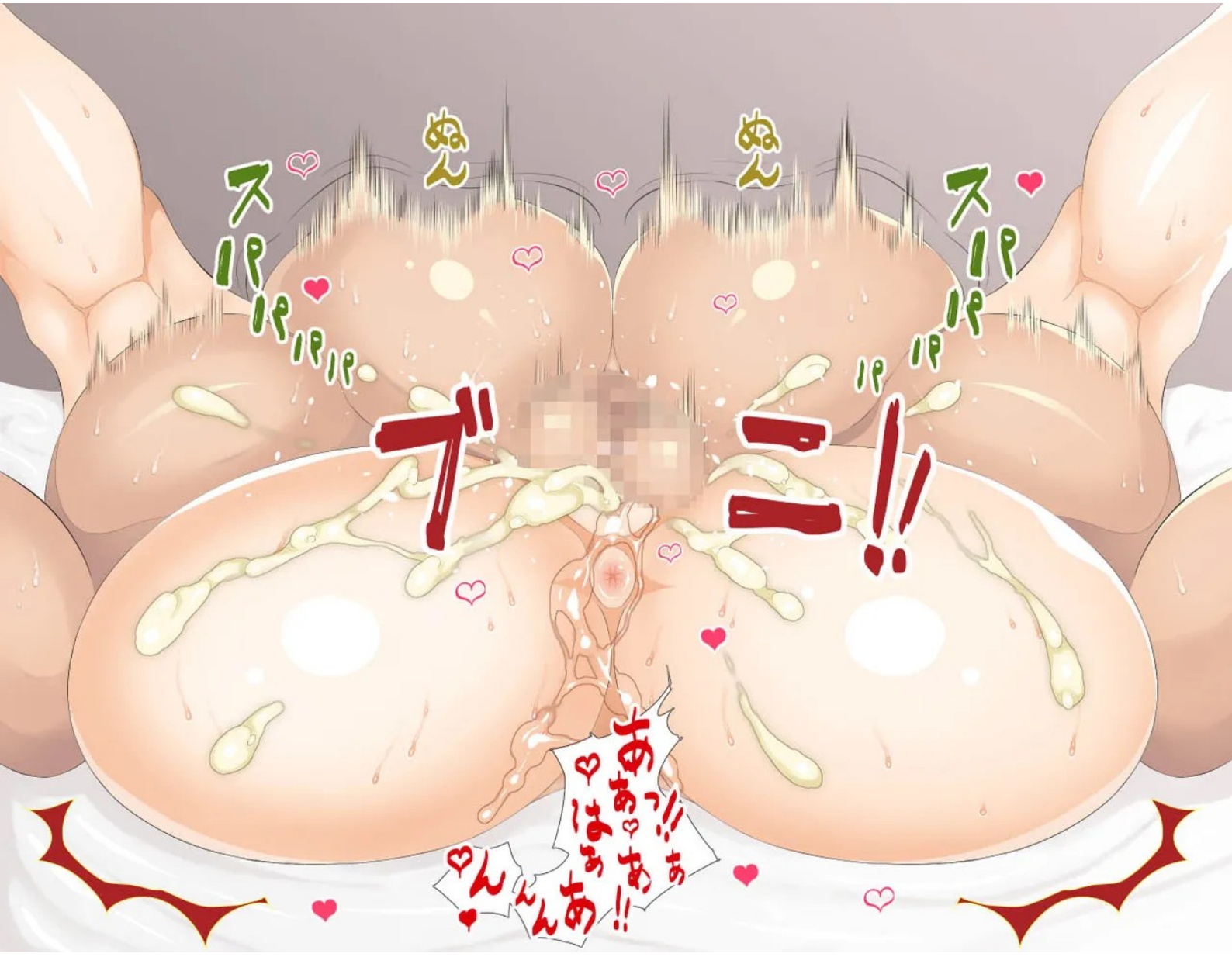

ふーふー
ふーふー
!!
あっ
あっ
あっ
むち


あっ
あっ
？
あっ
あっ
あっ
ふーー
ふーー
ふーー
むち

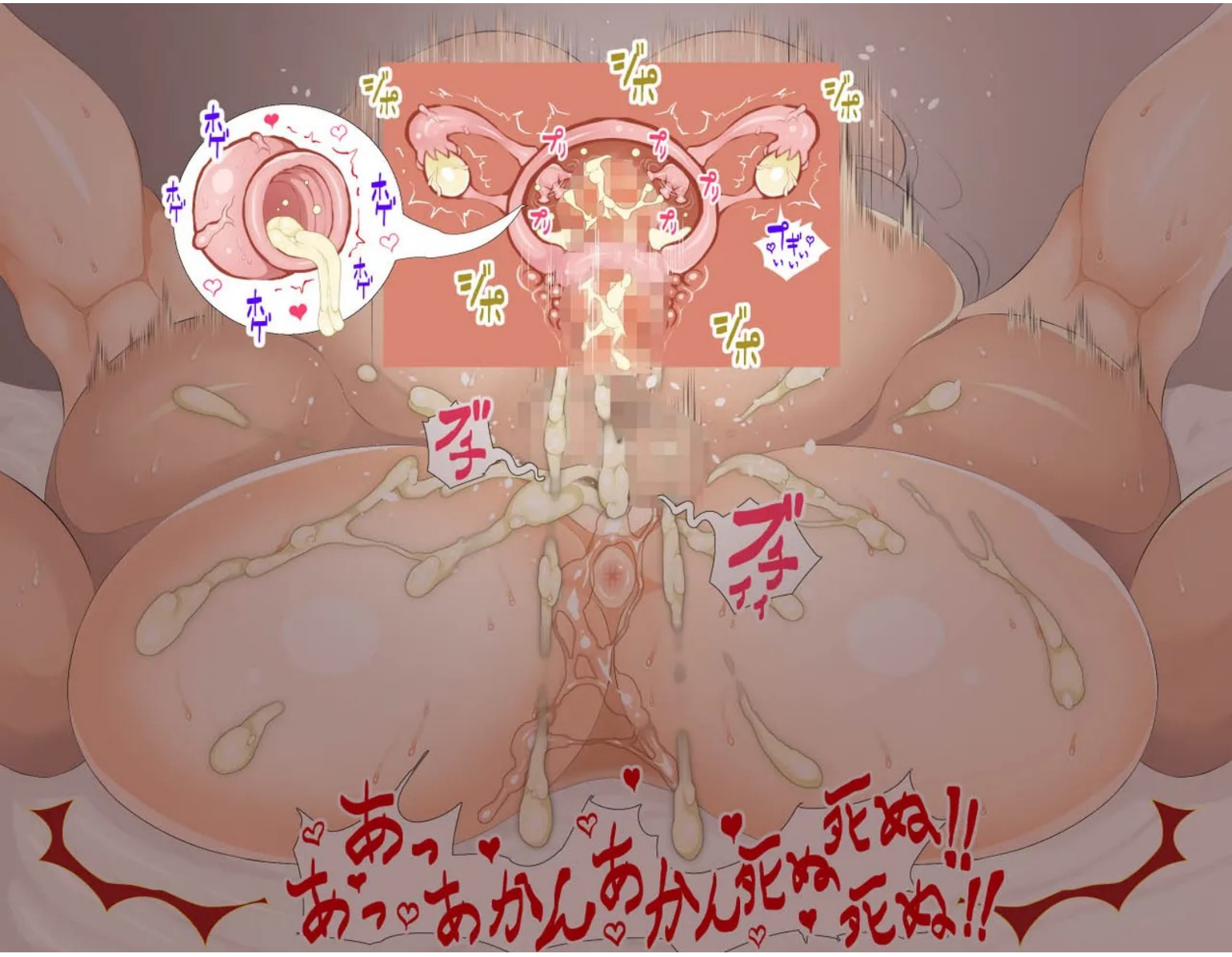

あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
〜〜っ♥
ふん
ふん
ふん
ふん
ふん
ズチ
ズチ
ズチ
ズチ
ズチ
ドププ!!

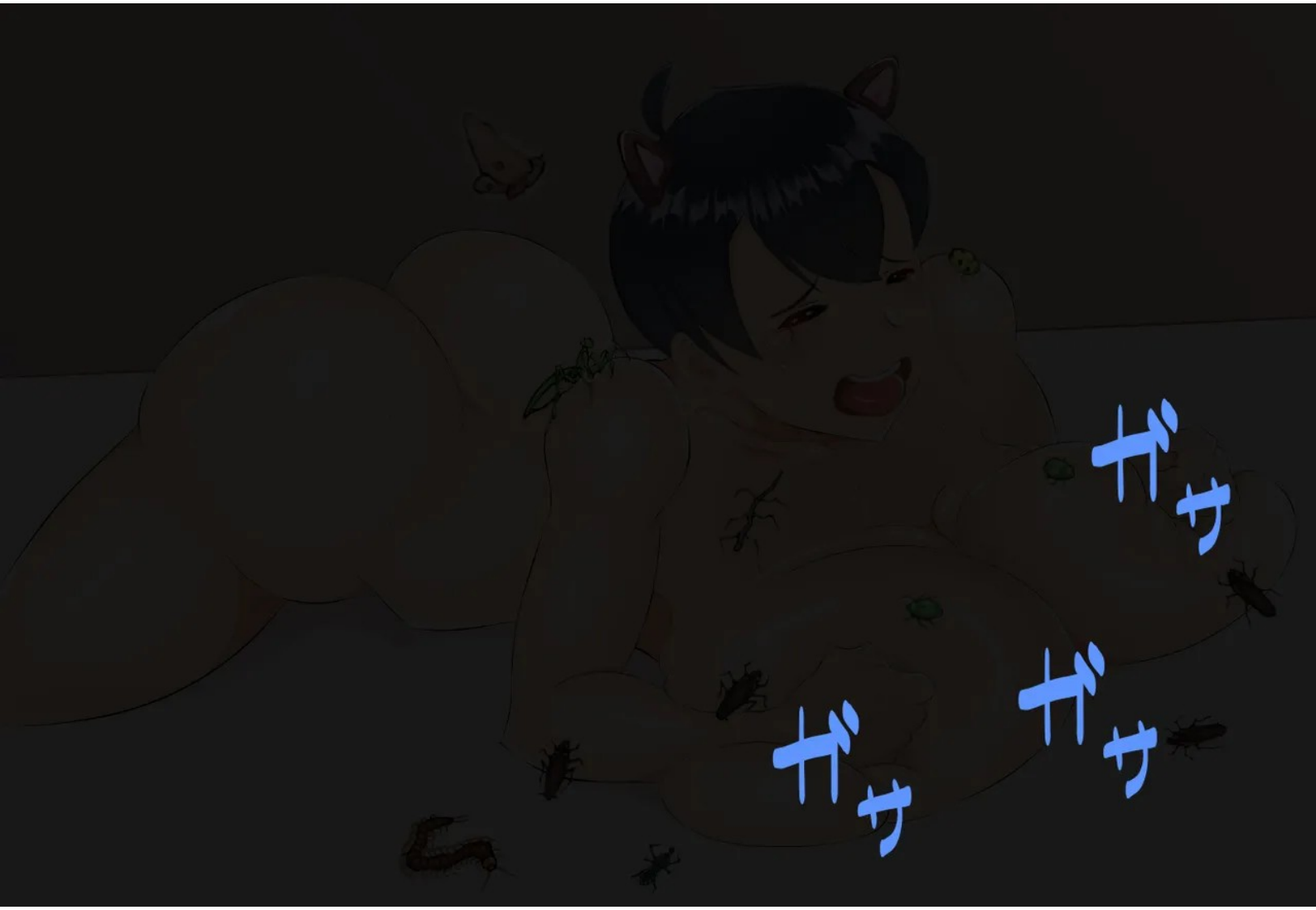

おおっ
えいっ
ぎゅいい
ブチ
ぎゅい
ぴぴぴ
ブリ
ドププ!!


ズチ
ズチ
ズチ
ズチ
ズチ
ジュルル
ルルル
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ


スパパパパ
ぬん
ぬん
スパパパ
ブニ!!
あっ!!
あ♡あ!!
はぁあ
んんあ♡


ボヒ
ボヒ
ボヒ
ボヒ
ボヒ
ボヒ
ボヒ
ブチ
ブチィィ
あっ♡あっ♡あかん♡あかん♡死ぬ!!
死ぬ!!


ジポ
ジポ
ジポ
ホゲ
ホゲ
ホゲ
ホゲ
プリ
プリ
プリ
プリ
プギぃぃ
ジポ
ジポ
ブチ
ブチィィ
あっ♡あっ♡あかん♡あかん死ぬ♡死ぬ!!
死ぬ!!


ザサ
ザサ
ザサ


ぴく!!


チョ ッ


おおおお
はぁ――
はぁ――
はぁ――
ブチ
ブチ
ブチ


はぁーー
はぁーー
はぁーー
ブチ
ブチ
ブチ
ニョキ
ニョキ
ニョキ
ニョキ
ニョキ
・・・・・




ぐすん…

ぼみ
ぼみ
ぼみ
ぼみ
ぼみ
ぼみ
ほひぃ♥
ほひぃぃ♥
おぉ♥
ドプ

しゃぶるぶるぶる
しゃぶるぶるぶる
しゃぶるぶるぶる

ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
しゃぴぴぴぴぴ
しゃぴぴぴぴぴ
しゃぴぴぴぴぴ
しゃぴぴぴぴぴ

!!!
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
ぽひぃ
おおおお


!!!
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ
ぽひいいいおおおおお
ぽひいいいおおおおお
おごおおおごごお
ちゅぱ
ブチ
ブチ
ブチ
ブチ


ざわ
ざわ


ぼーー
子種
むち
むち


しゃぱあああー
しゃぱあああー
子種


しゃぱぁあー
しゃぱぁあー
子種